

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	小田 久美子		
授 業 科 目	色彩学		科目区分	関連科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	1、2 年次・前期（隔年）
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 色彩学を体験的に学ぶことで色彩理解に必要な感覚と技術を修得することを目的とする。授業内で数回にわたって各課題を達成し、色彩と形態の構成を考察する機会を持つ。 【到達目標】 ・形態と色彩についての基礎を学ぶ。 ・色彩学を体験的に学ぶことによって、感覚と技術を身につける。 ・制作によって色彩に対する理解と親しみを持つことができる。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. 色彩の認識・色彩演習① 2. 色彩演習②（無彩色・有彩色の配色） 3. 色彩演習③（色彩に対する意識をもつ演習） 4. 色彩演習④（自分の中にある色彩に対する意識をもつ演習） 5. イニシャルエンボス①（デザイン） 6. イニシャルエンボス②（加工） 7. イニシャルエンボス③（完成） 8. 味覚の色彩表現①（テーマの設定） 9. 味覚の色彩表現②（感覚の色彩化） 10. 味覚の色彩表現③（着色） 11. 味覚の色彩表現④（完成） 12. 日常にあるものの便化（構図の工夫と検討） 13. 日常にあるものの便化（デザイン化） 14. 日常にあるものの便化（配色） 15. 日常にあるものの便化（着色） 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	必要な場合、プリントを随時配布する。 『色彩学の基本』山中俊夫 文化書房博文社など。 制作には、課題によって画材等が必要となる。4つ切り画用紙 水彩絵の具道具 長い定規				
事前学習の内容	計画にしたがった円滑な授業進行を可能にするために、授業前に十分な準備をして臨むことが求められる。準備の内容は、課題ごとに通知する。				
事後学習の内容	授業開始後の、計画にしたがった円滑な授業進行を可能にするために、十分な事後学習を行うことが求められる。事後学習の内容は、課題ごとに通知する。				
評 価 の 方 法 基 準	各時間における課題目標の達成度(50%)（授業目標3） 提出作品評価（提出期限を守る）(50%)（授業目標1. 2）これらの総合評定とする。				
履 修 上 の 注 意	画材費実費必要。円滑な進行を可能にするために、準備物の忘れ物をしないように注意すること。 準備物の内容は、課題ごとに通知する。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	徳山 亜希子		
授 業 科 目	ビジュアルアート論		科目区分	関連科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	1、2年次・前期（隔年）
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 県内外の美術館や芸術祭を題材に、「もの」や「アイディア」の見せ方について考える。 【到達目標】 ・ 県内を中心とした美術館や芸術祭について知る。 ・ ものやアイディアをどのように見せることができるか、企画の立案を通して検討する。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. オリエンテーション（授業の説明） 2. 県内にはどのような美術館があるか 3. それぞれの美術館の成り立ちと活動 4. 美術館の活動について(1)展覧会とは 5. 美術館の活動について(2)ワークショップなどの教育普及活動 6. 全国にはどのような芸術祭があるか 7. 芸術祭の楽しみ方 8. 芸術祭が地域にもたらすもの 9. 企画を考える（どんなものやアイディアを見せたいか） 10. 企画を考える（何を展示するか） 11. 企画を考える（企画書を書いてみる） 12. 企画を考える（会場を検討し、展示プランを作成してみる） 13. 企画を考える（安全の確保、関連イベント） 14. 企画を考える（パブリック・リレーションズ） 15. 企画についての意見交換、全体のまとめ 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	テキストの購入は不要。 参考資料：ちいさな美術館の学芸員著『学芸員しか知らない 美術館が楽しくなる話』産業編集センター(2024 年)				
事前学習の内容	必要に応じて各自で事前の調査を行う。				
事後学習の内容	各自で美術館や芸術祭に足を運んでみる。				
評 価 の 方 法 基 準	レポート（80%）、授業中に指名された際に自分の考えを発言する（20%）				
履 修 上 の 意 注	美術館や芸術祭を見に行った経験がなくても構わない。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	クリストファー・ウォルトン		
授 業 科 目	ビジュアルデザイン演習		科目区分	関連科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	演習	開 講 時 期	1 年次・後期
授 業 の 主 題 目 標	【授業の主題】 イラストレーションでの表現に重点を置く。 作品課題のテーマは年によって変わり、地域連携プロジェクトが含まれることもある。 【到達目標】 ・独創的で説得力のあるコンセプトを開発する ・創意に富んだ内容とスタイルのイラストレーション作品とする。 ・目的のメッセージや情報を効果的に伝えるイラストを制作する。 ・アナログ、デジタル両技術を調和させる。 ・Adobe を使用してデジタル制作を行う。 ・効果的なプレゼンテーション手法を用いる。				
授 業 の 内 容 進 め 方	各プロジェクトの時間的要件や授業の状況に応じて、課題計画を3つのプロジェクトから2つのプロジェクトに調整する可能性がある。 プロジェクト1 1. 科目の目標、課題計画の概説 2. イラストレーション課題作品1の「Background Research：概説・調査」 3. イラストレーション課題作品1の「Creation：制作」 4. イラストレーション課題作品1の「Retouching：修正」 5. イラストレーション課題作品1の「Completion, Presentation：完成、発表」 プロジェクト2 6. イラストレーション課題作品2の「Background Research：概説・調査」 7. イラストレーション課題作品2の「Creation：制作」 8. イラストレーション課題作品2の「Retouching：修正」 9. イラストレーション課題作品2の「Completion, Presentation：完成、発表」 プロジェクト3 10. イラストレーション課題作品3の「Background Research：概説・調査」 11. イラストレーション課題作品3の「Creation：制作」 12. イラストレーション課題作品3の「Retouching：修正」 13. イラストレーション課題作品3の「Completion, Presentation：完成、発表」 14. 課題作品まとめ 15. 最終的プレゼンテーション、全体講評・評価 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	『The Art and Flair of Mary Blair』Disney Editions、2014 『ABCの本』安野光雅、1974 『Timeline』Peter Goes、2015 上記に加えて授業課題に関連参考資料をGoogle Classroomで投稿する。				
事前学習の内容	事前 Google Classroom に指示、配布資料、参考を読み、授業目的を把握しておくこと。 授業活動に必要な材料、用具、デジタルファイルを持参すること。				
事後学習の内容	授業内容を見直すとともに、課題の要件に従っていることを確認すること。 各課題で授業中の進捗状況に関する小レポートが提出すること。				
評 価 の 方 法 基 準	作品制作・提出（70%）、作品プレゼン・発表（30%）				
履 修 上 の 注 意	デジタル制作のために、タブレットとドローイングアプリを使用することが推奨される。 PC 教室で作業する場合は、64GB 以上のUSB メモリをご用意ください。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	野村 真司		
授 業 科 目	ドローイングⅠ		科目区分	関連科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	演習	開 講 時 期	1 年次・前期
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 ダ・ビンチは、絵画論の中で「絵画は壁のしみからのイマジネーションである」と述べている。基底材としては紙を使用し、各自選んだ描画材でドローイングの様々な平面表現に挑戦する。 【到達目標】 本科基礎デッサン、人体デッサンで、白紙の状態から形態を描き出すトレーニングをしてきたが、ここでは、あらかじめ作ったしみやマチエールから形態を着想し、引き出していくドローイングに慣れること目標にする。描画表現は、描画用具（筆・ナイフ等）やその用法・タイミングによって異なり、その表現は多岐にわたるが、ここでは、その一端を記しておく。また、大原美術館作品について、美術史を含め口述していく。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. オリエンテーション 2. ポアリングからの表現 3. ドリッピングからの表現 4. デカルコマニーからの表現 5. フロッタージュからの表現 6. スタンピングからの表現 7. ステンシルからの表現 8. 水と油の反発を使った表現 9. 揉み紙による表現 10. たらし込みによる表現 11. 漆喰地を使った表現 12. レジンサンドを使った表現 13. モデリングペーストを使った表現 14. ローラー下地を使った表現 15. 講評 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	画集・画像検索等を通じ、適宜提示していく。参考図書『現代の洋画』マリア書房				
事前学習の内容	各自、作品の進捗状況に合わせ、当日の課題箇所を授業前までにイメージしておく。				
事後学習の内容	当日の制作をふり返り、次週での修正箇所をチェックしておく。				
評 価 の 方 法 基 準	全課題提出および2/3以上の出席を前提条件として、作品（100%）で評価する。				
履 修 上 の 意 注	ドローイングⅠおよびⅡを連続的に考えているので、ⅠおよびⅡを通じての受講が望ましい。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	野村 真司		
授 業 科 目	ドローイングⅡ		科目区分	関連科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	演習	開 講 時 期	1 年次・後期
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 ダ・ビンチは、絵画論の中で「絵画は壁のしみからのイマジネーションである」と述べている。基底材としてはキャンバスを使用し、各自選んだ描画材で様々な平面表現に挑戦する。描画表現としては、コラージュおよび箔貼りまでを認める。 【到達目標】 ここでは、前期ドローイングⅠで習得した技法を複合的、重層的に捉え、ミクストメディアとして複数枚制作を目標にする。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. オリエンテーション（「ドローイング」に関する美術館鑑賞の有用性についても口述する） 2. 制作1 キャンバス地に漆喰地塗り 3. 制作1 ドリッピング、ポアリング等による下地作り 4. 制作1 作った下地をサンディングする 5. 制作1 画面のしみや浮き上がった文様を元に筆、ペンでデッサン 6. 制作1 形態の掻き込みまたは着彩 7. 制作1 着彩 8. 制作2 キャンバス地に漆喰地塗り 9. 制作2 ドリッピング、ポアリング等による下地作り 10. 制作2 作った下地をサンディングする 11. 制作2 画面のしみや浮き上がった文様を元に筆、ペンでデッサン 12. 制作2 形態の掻き込みまたは着彩 13. 制作2 着彩 14. 美術館および画廊での鑑賞 15. 講評 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	画集・画像検索等を通じ、適宜提示していく。参考図書『現代の洋画』マリア書房				
事前学習の内容	各自、作品の進捗状況に合わせ、当日の課題個所を授業前までにイメージしておく。				
事後学習の内容	当日の制作をふり返り、次週での修正箇所をチェックしておく。				
評 価 の 方 法 基 準	全課題提出および2/3以上の出席を前提条件として、作品（100%）で評価する。				
履 修 上 の 注 意	Ⅱは応用編なので、Ⅰを履修していることが望ましい。開講中に県内の美術館および画廊での鑑賞を行う。実施時期の確定は、展示内容を確認した後に適宜決定する。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	稲葉 剛		
授 業 科 目	立体制作論		科目区分	関連科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	2 年次・前期
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 ディスプレイと立体造形について基礎知識と独自の視点を養い、比較。検討・議論を行う。そのためにまず、ディスプレイ及び立体造形の成り立ちを把握し、基本的・部分的な制作を通じて基礎知識を身に付ける。具体的には、まず基本的・部分的な作品制作を課題作品とし、表現手法や作品の背景をなす文化的事象を含めた議論を行う。授業終盤では、立体制作物・スピーチ・画像を交えたプレゼンテーションを行う。 【到達目標】 ・プレゼンテーションは、各課題を通じて獲得した造形的感覚・服飾販売に係るアイデア・作品の背景をなす文化的事象が含まれていること、さらには、専門用語が運用できることを目標とする。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. 立体造形について 2. 展開図からの立体制作 3. ヘッドパーツのプランニング・事例収集 4. ヘッドパーツの制作 5. ヘッドパーツの展示プラン及び展示案の制作 6. ディスプレイデザインについて 7. ディスプレイデザインの研究事例解題（解説） 8. ディスプレイデザインの研究事例解題（討議） 9. ディスプレイデザイン実例の検討（解説） 10. ディスプレイデザイン実例の検討（実地調査写真あるいは実例写真の収集） 11. ディスプレイデザイン実例の検討（討議） 12. デジタルカメラの基本確認・撮影演習 13. 制作するまとめ作品に関する発表・討議、作品プレゼンテーション準備 14. 作品プレゼンテーション演習 15. 授業のまとめと試験				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	必要に応じてプリントを配布する。 参考図書：『空間創造発想帖』（六耀社）				
事前学習の内容	配布プリントや資料に目を通しておく。				
事後学習の内容	授業中に完成しなかった課題は、次回授業までに完成させておくこと。				
評 価 の 方 法 基 準	月に2回程度の提出物（30%）、試験（10%）、期末提出作品（60%）				
履 修 上 の 注 意					

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	大原 啓市		
授 業 科 目	情報処理論		科目区分	関連科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	1、2 年次・前期
授 業 の 主 題 目 標	【授業の主題】 オンライン講義で課題提出と提出確認ができるように講義する。 Google Workspace の基本アプリの PC とスマホでの利用を講義する。 Windows とワード・エクセル・パワーポイントの基礎を講義する。 【到達目標】 ・オンライン授業における課題提出・受講方法を習得する。 ・実習を通してワード、エクセル、パワーポイントの操作法を習得する。 ・情報倫理を理解する。				
授 業 の 内 容 進 め 方	パソコンのログイン・Google Workspace の活用 1. パソコンのログイン・Google Workspace の活用 【情報倫理】オンライン授業での心がけ（録画・スクショ） 2. Section1 【Word 活用術】STEP4 レポートとして文章を整理する【スタイル・表紙・ページ番号】 【情報倫理】アクセシビリティ・ユニバーサルデザイン 3. Section1 【Word 活用術】STEP4 レポートとして文章を整理する【アウトライン・目次・表紙・脚注】 【情報倫理】フェイクニュースの社会への影響 4. Section2 【Excel 活用術】STEP1 書式を付けて見やすく編集【3 桁区切り・和暦表示】 【情報倫理】著作権法の改正とネット配信 5. MOS 検定【Word】模擬プロジェクト【スタイル・表紙・ページ番号・目次・参考資料】 6. Section3 【Word & Excel 活用術】STEP1 【Excel の表とグラフを貼り付ける】 【情報倫理】著作権法の改正とネット配信・AI チャットボット・フィッシング、詐欺行為 7. Section2 【Excel 活用術】STEP2 「厳選」関数を使いこなす【構成比・絶対参照・ROUND・RANK. EQ】 【情報倫理】AI チャットボット・フィッシング、詐欺行為 8. Section2 【Excel 活用術】STEP2 「厳選」関数を使いこなす【構成比・絶対参照 9. Section1 発展学習『クリスマスパーティーのお知らせ』【ワードアート・テキストボックス】 【情報倫理】財産権と人格権、著作物の扱いについて 10. Section1 練習学習『二次会開催のお知らせ』【図形描画・地図作成・グループ化】 11. 【Word & Excel 活用術】STEP2 【データを連携させる】【差し込み印刷・横書き】 12. Section2 【Excel 活用術】効率化を図る【VLOOKUP 関数】 13. Section2 【Excel 活用術】効率化を図る【IF 関数・AND 関数・OR 関数・関数のネスト】 14. MOS 検定【Excel】模擬プロジェクト 15. MOS 検定【PowerPoint】模擬プロジェクト 定期試験は実施しない				
テ キ ス ト 教 材	『教科書【リファレンス動画付き】つくりたい！がカタチになる 学生のための Office スキル活用&情報モラル 改訂版』：noa 出版（著、編集）				
事前学習の内容	予め各授業回のテーマに沿った下調べを各自行うこと。 タッチタイピングの練習をしっかりと行うこと。				
事後学習の内容	各回授業で取り組んだ内容を復習する。				
評 価 の 方 法 基 準	毎回の課題について提出条件を満たすレベルまで取り組む授業態度（20%） Classroom 課題（60%）、発表会（20%）				
履 修 上 の 意 注	なし				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	全 円子		
授 業 科 目	国語表現法演習		科目区分	関連科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授業形態	演習	開 講 時 期	1、2 年次・前期
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 話しことば、書きことばの両面から日本語の効果的な表現方法を学ぶことによって、実践力を養う。話しことばの面では、基本的なことがらについて理解を深めるだけでなく、スピーチ力や電話応対力を身に付けることが可能となる。書きことばの面では、小論文・レポート・レジュメ・手紙を書く上で望ましい文章表現について確認し、実作することで、文章表現力の向上が可能となる。 【到達目標】 話しことばについては、ディベートも体験することで、コミュニケーション能力を高めるだけでなく、論理的に話す能力を身に付ける。書きことばについては、社会人になった時、現場で対応できる文章力を実作を通して確認する。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. シラバス説明、ポートフォリオについての説明、第1課（日本語の話し方、振り返り） 2. 第1課（日本語の話し方 本文） 3. 第4課（スピーチをしよう） 4. 自己PR（第1グループ）、第2課（日本語の表記 振り返り） 5. 自己PR（第2グループ）、第2課（日本語の表記 本文） 6. 自己PR（第3グループ）、第3課（文章表現と文章構成 振り返り） 7. 自己PR（第4グループ）、第3課（文章表現と文章構成 本文） 8. 自己PR（第5グループ）、第5課（小論文・レポート・レジュメ・論文を書こう 振り返り） 9. 第5課（小論文・レポート・レジュメ・論文を書こう 本文） 10. 第6課（敬語を学ぼう 振り返り 本文） 11. 第6課（敬語を学ぼう 練習問題） 12. 第7課（手紙を書こう 振り返り 本文） 13. 第8課（電話をかけよう 振り返り 本文） 14. 第9課（ディベートをしよう 振り返り 本文） 15. 第9課（ディベートをしよう 実践） 自己評価 他者評価 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	テキスト 『改訂新版 基礎から学ぶ日本語表現法』（山根智恵・久木田恵、大学教育出版） 参考図書 『敬語再入門』（菊池康人、講談社学術文庫） 『新しい国語表記ハンドブック第8版』（三省堂編修所編、三省堂） 『大学生と留学生のための論文ワークブック』（浜田麻里他、くろしお出版）				
事前学習の内容	課題とする文章表現について調べる。				
事後学習の内容	毎回授業後に出された課題を、原則次の授業までに行い、提出する。				
評 価 の 方 法 基 準	学修ミニレポートなど授業への取り組み（10%） ポートフォリオ（90%）（1～9 課 各課 10%）				
履 修 上 の 注 意	なし				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	服飾美術学科全教員		
授 業 科 目	生活文化環境論		科目区分	専門科目	4 単 位
必 修 ・ 選 択	必修	授業形態	講義	開 講 時 期	1 年次・通年
授 業 の 主 題 目 標	【授業の主題】 生活文化や生活環境を考えることは単なる知識の集積ではなく、人やモノの関係性をしっかり観ることであり、生き方をデザインすることである。本講義においては各担当教員が、私たちを取り巻く日常を多様な観点から、またその関係性を紐解きながら問題提起し、受講者が新たな価値基準を発見する授業である。 【到達目標】 ・生活環境や文化に対し、多様な観点から理解する力をもつ。 ・生活の中におこる問題点について独自の視点から、自分の意見が言える。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. 衣服衛生の立場から、人間と衣服環境の望ましい関係を考える (担当：佐藤) 2. 衣服の機能と快適性・着心地 -肌着、ベビー・キッズアパレル(担当：佐藤) 3. 衣服の機能と快適性・着心地 -UV 対策アパレル、学校制服(担当：佐藤) 4. マイクロソフト オフィス スペシャリストからみたビジネス文書・論文作成術(担当：大原) 5. マイクロソフト オフィス スペシャリストからみたエクセル活用術 (担当：大原) 6. ビジネスにおけるエクセル関数術と統計検定(担当：大原) 7. 科学的、工学的視点から生活文化、生活環境を考える(担当：道明) 8. ものづくりと技術、品質について(担当：道明) 9. ものづくりとブランドについて(担当：道明) 10. ものづくりと環境問題(担当：道明) 11. 海外の芸術・文化活動の例(担当：趙) 12. 日本の芸術・文化活動の例(担当：趙) 13. 現代における問題意識について(担当：趙) 14. 消費者の入れ込み度合である「関与」を理解する(担当：岩崎) 15. 外界から情報・刺激を選択・解釈する消費者の「知覚」を理解する(担当：岩崎) 16. 消費者の「態度」形成に及ぼす要因とその影響を理解する(担当：岩崎) 17. 日本の文化や環境を視点として、精神を患わずことと社会について考察する (担当：上村) 18. 観察映画を通してメディアや社会がつくり出しているものごとについて考察する (担当：上村) 19. 坂口安吾の日本文化私観について考察する。(担当：上村) 20. 現在の日本の文化や環境について具体的な事例から考察する。レポート提出 (担当：上村) 21. 衣服の入手方法と服飾への価値観の変化について(担当：乾) 22. 衣生活の振り返り (担当：乾) 23. 衣生活の振り返りにより、衣生活のあり方を考える(担当：乾) 24. カルト映画を通じて、時代や社会を考察する(担当：田中) 25. 1950～60 年代の音楽表現から見る芸術・文化・社会の考察について(担当：田中) 26. 1970 年代の音楽表現から見る芸術・文化・社会の考察について(担当：田中) 27. 社会政策①：大学生の就職活動とその実態(担当：田鹿) 28. 社会政策②：社会政策の意義と歴史、社会政策の考え方(担当：田鹿) 29. 社会政策③：労働者の生活、賃金、労働組合、労働運動(担当：田鹿) 30. 社会政策④：地域経済における企業、行政の役割(担当：田鹿) 定期試験は実施しない。 各教員の担当順は都合により変更することがある。				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	各担当教員が資料を配布する。 参考図書：松生勝編著『アパレル科学概論』朝倉書店、 坂口安吾『日本文化私観—坂口安吾エッセイ選』(講談社文芸文庫)講談社、				
事前学習の内容	各担当教員が配付する資料や参考図書などの該当箇所を参照し、学習内容に応じて適宜予習を行うこと。				
事後学習の内容	授業内容を振り返り、各担当教員が提示した課題を完成させる。				
評 価 の 方 法 基 準	提出課題(80%) 観察記録(20%)				
履 修 上 の 注 意	学位授与機構に申請する際の「家政学に関する総合的な科目」に相当する。 各教員の担当順は都合により変更することがある。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	上村 晴彦		
授 業 科 目	生活情報論		科目区分	専門科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	講義	開 講 時 期	1、2年次・後期（隔年）
授 業 の 主 題 目 標	【授業の主題】 生活情報における私たちの周囲にある物事を観察しながら、テキストを読んでいく。社会の変化とともにある、私たちの生活における情報のありようについて知り、考察する。 【到達目標】 ・生活を取り巻く情報というあいまいなものの存在について理解することができる。 ・情報がつくっているものごとについて理解することができる。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. オリエンテーション 情報とはなにか、生活における情報について 2. 知識と常識 3. 脳の中の入出力 4. 個性について 5. 自己の情報化 6. 意識と言葉 7. 脳内の活動 8. 身体について 9. 共同体について 10. 無意識について 11. 脳の操作 12. 教育について 13. 人とのものこころについて 14. コミュニケーションについて 15. まとめ 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	参考資料 『バカの壁』養老孟司（新潮新書）、『こころの情報学』西垣通（ちくま新書）、『わかりあえないことから コミュニケーション能力とは何か』平田オリザ（講談社現代新書）				
事前学習の内容	授業で配付された資料に目を通し、プレゼンテーションやレジュメの準備、課題に取り組むこと。毎回ディスカッションを行うので、指定された箇所をよく読んでくること。				
事後学習の内容	各回のディスカッションに関するレポートを提出すること。				
評 価 の 方 法 基 準	プレゼンテーション（60%） 課題（40%）				
履 修 上 の 注 意	なし				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	宮崎 正宇（実務経験あり）		
授 業 科 目	生活福祉論		科目区分	専門科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	2 年次・後期
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 社会福祉の意義や法制度について学ぶとともに、生活者の視点から、社会福祉の現状と課題について理解する。 【到達目標】 ・社会福祉の意義について理解する。 ・社会福祉の法制度について理解する。 ・社会福祉の現状と課題について理解する。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. 現代社会と社会福祉 2. 社会福祉と関連法 3. 子ども家庭福祉の現状 4. 子ども家庭福祉の課題 5. 社会保障制度の現状 6. 社会保障制度の課題 7. 障がい児・者福祉の現状 8. 障がい児・者福祉の課題 9. 地域福祉の現状 10. 地域福祉の課題 11. 低所得者の福祉の現状 12. 低所得者の福祉の課題 13. ソーシャルワーク 14. 高齢者福祉の現状 15. 高齢者福祉の課題 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容	児童福祉施設での個人的な体験や相談援助の事例を通して、体系的・実践的な相談援助の価値、知識、技術を教授する。				
テ キ ス ト 教 材	直島正樹・原田旬哉編著『図解で学ぶ保育 社会福祉（第3版）』萌文書林 2022 年 必要に応じて資料を配布する。				
事前学習の内容	テキストの該当部分を読み、概要を把握しておくこと。 授業の中で、発表が必要な事柄についてレポートを提出すること。				
事後学習の内容	授業中のノートや配布資料を見直し、要点を把握しておくこと。 発表に関するコメントシートを提出すること。				
評 価 の 方 法 基 準	観察記録（10%）、発表（10%）、レポート（50%）、コメントシート（30%）				
履 修 上 の 注 意					

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	乾 眞理子		
授 業 科 目	パターンメイキング論		科目区分	専門科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	1、2年次・前期（隔年）
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 パターンメイキングの基礎理論と、デザイン展開における応用理論を理解し、デザインパターンを製図できる能力を養う。前半は基礎理論をシーチング等で検証し理解を深め、後半はドレーピング技法を学び、デザインへの感性を磨きデザイン性の高い被服の表現方法を知る。 【到達目標】 1. シンプルなデザインのスタイル画をみて、パターンメイキングができる。 2. ドレーピングにより、ドレスが表現できる。				
授 業 の 内 容 方 進 め 方	基礎理論 1. 身頃の原型理論 2. 身頃のドレーピング 3. 人体と原型比較 4. 袖と袖付けの関係性 5. 袖のデザイン比較 6. 衿の構成と特徴 7. 衿のデザイン比較 8. 人体とスカート 9. スカートのデザイン比較 10. 人体とズボン 11. ズボンのデザイン比較 応用理論及び、ドレーピング 12. ドレスのドレーピング 身頃 13. ドレスのドレーピング スカート 14. ドレスのデザイン比較 15. まとめと試験				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	適宜プリントを配布します。指示に従ってファイリングすること。 参考書：『文化ファッション体系 服飾造形講座(1) 服飾造形の基礎』文化出版局				
事前学習の内容					
事後学習の内容	前回の内容を完成しておく。				
評 価 の 方 法 基 準	課題（70%）、試験（30%）				
履 修 上 の 注 意	本科において、服飾造形に関する授業とパターンメイキングの授業を履修していることが望ましい。 提出物を期限日に遅れた場合は評価できないことがあります。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	藤原 惇希		
授 業 科 目	服飾造形実技 I		科目区分	専門科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	実習	開 講 時 期	1 年次・後期
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 自由にデザインをしたオリジナルジーンズを制作する。 制作を通じ、ジーンズの構造や縫製方法およびデニムの加工方法を習得するとともに、倉敷や児島の文化について学びを深める。特殊ミシンを使用した縫製工程は倉敷市児島産業振興センターの繊維産業ワークスペースを活用し、より実践的なジーンズ縫製の能力を身につける。 【到達目標】 ・ジーンズの構造や縫製方法、加工方法を理解している。 ・デザインに合わせたジーンズが縫製できる技術を身につけている。 ・倉敷や児島の文化やそれに伴う技術について深く理解している。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. ジーンズの構造・副資材について、太番手でのミシンの使い方 2. デザイン画の作成 3. 前パンツの作図 4. 後ろパンツの作図 5. オリジナルジーンズへの型紙展開 6. 裁断・印つけ 7. ポケットの作成と取り付け 8. 前たての作成 9. 後ろパンツの作成 10. 股縫いと脇縫い 11. ウエストベルトとベルトループ 12. 試着と裾上げ、加工のための印つけ 13. 特殊ミシンによる縫製 ※学外活動を予定 14. デニム加工 ※学外活動を予定 15. ジーンズの装飾、プレゼンテーションと作品撮影 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	適宜配布。『文化ファッション体系 服飾造形講座(2) スカート・パンツ』文化出版局 参考図書：『文化ファッション体系 服飾造形講座(9) メンズウェア I (体型・シャツ・パンツ) 』文化出版局 『ジーンズソムリエ資格認定試験公式テキスト』岡山県アパレル工業組合（株）児島ファッションセンター				
事前学習の内容	必要な材料（デニム生地）、道具を準備してくること。 お気に入りのデニムパンツを元に作っていくので見つけておく。				
事後学習の内容	製作方法等の振り返りを行う。授業内で終わらなかった課題について、次回までに終えておくこと。				
評 価 の 方 法 基 準	課題作品（50%）、プレゼンテーション（30%）、観察記録（20%）				
履 修 上 の 意 注	特殊ミシンによる縫製とデニム加工の回は現地への集合で、学外にて行います。 体調管理に気をつけて参加して下さい。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	江口 まりこ		
授 業 科 目	服飾造形実技Ⅱ		科目区分	専門科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	実習	開 講 時 期	2 年次・前期
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 過去の衣服史や民族衣装の知識を身につけつつ、より高度な理論・技術・表現力を養う。具体的には、ジャケットもしくはコートの製作を通して、デザインの方法、適した布の選び方、体型に合わせた快適なパターン作り、応用的縫製方法を学ぶ。 【到達目標】 ・裏付きジャケットもしくはコートを設計及び縫製し、作り上げることができる。 ・デザインにあった、布・縫製技法を選択できる。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. ジャケットの歴史と形状について デザイン画作成 2. パターン作成（身頃） 3. パターン作成（袖・衿） 4. 仮縫い 5. 試着・パターン修正 6. 表地裁断 7. 裏地裁断・接着芯張 8. 本縫い(1) 身頃・ポケット 9. 本縫い(2) 衿作り 10. 本縫い(3) 衿付け 11. 本縫い(4) 袖作り 12. 本縫い(5) 袖付け 13. 本縫い(6) ボタンホール等 14. 仕上げ 15. 着装・課題提出 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	『(文化出版局 MOOK シリーズ) 誌上・パターン塾 Vol.1.5 ジャケット&コート編』文化出版 参考図書『文化ファッション大系 改定版・服飾造形講座4 ジャケット・ベスト』文化服装学院編 文化出版局				
事前学習の内容	事前に教科書に目を通しておく。				
事後学習の内容	時間内にできなかったところは、次回までに完成しておく。				
評 価 の 方 法 基 準	提出課題（80%）、レポート（20%）				
履 修 上 の 意 注	本科の服飾造形実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ、専攻科の服飾造形実技Ⅰを履修していることが望ましい。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	江口 まりこ		
授 業 科 目	服飾造形実技Ⅲ		科目区分	専門科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	実習	開 講 時 期	2年次・後期
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 フォーマルウェアの製作を通じ、コンセプトに基づいた独創的なデザインのパターン展開と、製作方法を理解する。フォーマルウェアに適切な形、素材についても知識を深め、デザインに取り入れる方法を習得する。また、製作した作品とコンセプトのプレゼンテーションを行うことにより、説得力のあるデザインを発信できる能力も身につける。 【到達目標】 ・フォーマルウェアの定義や適切な形や素材について理解している。 ・コンセプトに基づいたフォーマルウェアのデザイン・製作を行うことができる。 ・高級素材に適した仕立ての処理を行うことができる技術が身についている。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. フォーマルウェアの定義と素材について・コンセプトの設定 2. ムードボードとデザイン画の作成 3. パターン製作(1)身頃・スカート 4. パターン製作(2)袖・衿 5. サンプル製作とパターン修正 6. 裁断（表地・裏地） 7. 接着芯・印つけ 8. 身頃の縫製 9. スカートの縫製 10. ファスナー付け 11. 袖・衿の縫製 12. 裏地の縫製 13. 裏地付け 14. 装飾・仕上げ 15. プレゼンテーションと作品撮影 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	『文化ファッション体系 服飾造形講座(3) ブラウス・ワンピース』文化出版局 『文化ファッション体系 服飾造形講座(6) 服飾造形応用編Ⅰ』文化出版局 参考書 『文化ファッション体系 服飾造形講座(4) ジャケット・ベスト』 『誌上・パターン塾 vol.4 ワンピース編』				
事前学習の内容	必要な材料、道具を準備してくること。				
事後学習の内容	製作方法等の振り返りを行う。授業内で終わらなかった課題について、次回までに終えておくこと。				
評 価 の 方 法 基 準	課題作品（80%）、プレゼンテーション（20%）				
履 修 上 の 注 意	服飾造形実技Ⅰ（1年次・後期）・Ⅱ（2年次・前期）を履修していることが望ましい。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	片山 佳代子		
授 業 科 目	手工芸論		科目区分	専門科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	講義	開 講 時 期	1、2 年次・後期（隔年）
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 ・工業化、機械化が進展する中で手工芸の意義とは何かについて思索し、手紡ぎ、手織りの歴史と基本的技能について学ぶ。 【到達目標】 ・自分にとって手工芸とは何かを語る言葉を持つ。 ・綿花が布になるまでの各工程についての知識を実際の体験を通して習得する。 ・簡易原始機を使用して、機織りの原理を理解する。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. オリエンテーション（衣服とは何か？綿花が布になる工程の説明） 2. 綿繰りとカードがけ、「服から生まれた文化」 3. 糸紡ぎ(1) 篠綿作り、「機械化・工業化がもたらしたこと」 4. 糸紡ぎ(2) 紡ぎに慣れる、「ディーセントワークと奴隷労働」 5. 糸紡ぎ(3) 均一な糸を紡ぐ、「勤勉革命」 6. 精練、「機織りの歴史(1)（原始機から高機へ）」 7. 緋糸作り、括り作業、「機織りの歴史(2)（縞から緋織へ）」 8. 染色、「藍染の仕組み」 9. 単糸と双糸、糊付け、「技術の継承」 10. 整経、「必需品としての衣類」 11. 機織り(1) 簡易機織り機の作成、「手仕事の効用」 12. 機織り(2) 経糸を張る、「手工芸品の条件」 13. 機織り(3) 緯糸を通す、「手工芸が作る社会」 14. [ディスカッション] 「手工芸から生まれる物語」 15. 総括 まとめのレポート作成 ※講義内容について、毎回レポートを提出してもらいます。 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	適宜プリント配布。 【参考書】『ガンディーの遺言』（M. K. ガンディー著、V2 ソリューション） 【参考書】『ガンジーの教育論』（M. K. ガンジー著、V2 ソリューション） ※参考書は必ずしも購入する必要はない。				
事前学習の内容	事前配布資料を読み、概要を把握しておくこと。必要な道具と材料を準備すること。				
事後学習の内容	授業中のノートを見直すとともに、各回で課す小レポートを提出すること。授業中に完了しなかった課題は次回授業までにやっておくこと。				
評 価 の 方 法 基 準	授業毎に提出する小レポート(50%)、最終回のまとめのレポートと提出物(50%)				
履 修 上 の 意 注	道具、材料費 4,500 円程度必要。必要な道具、材料を忘れないように注意すること。 精練、染色、糊付けについては、教室が変更となる可能性があります。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	佐藤 希代子		
授 業 科 目	被服生理学		科目区分	専門科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	1、2年次・後期（隔年）
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 感性豊かな衣服設計を目標とし、温冷感覚、触圧感覚、視覚、聴覚などの諸感覚器官の構造と機能、感覚の主観判定、感覚と生体情報計測の基礎を学習する。そして、それらの感覚の判定に基づいた被服設計について考えることを目的とする。 【到達目標】 本授業を通し、ヒトの生理反応について理解を深めることを目標とする。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. アパレルの評価 ―感覚と感性― 2. 生体のシステム(1) 中枢神経系 3. 生体のシステム(2) 脳の機能 4. 温冷感覚 5. 触圧感覚 6. 視覚 7. 聴覚 8. 官能検査法 計測(1) 主観申告 9. 計測(2) 脳波 10. 計測(3) 眼球電図、筋電図 11. 計測(4) 心電図 12. 計測(5) 体温、皮膚温 13. 事例(1) 触・圧刺激（衣服圧）と筋疲労 14. 事例(2) 触・圧刺激（衣服圧）と自律神経系・中枢神経系の反応 15. まとめ・筆記試験				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	テキスト：日本家政学会被服衛生部会編『アパレルと健康』井上書院 参考図書：斉藤秀子・呑山委佐子編著『快適服の時代』おうふう 田村照子編著『衣の科学シリーズ 衣環境の科学』建帛社 鈴木浩明著『快適さを測る』日本出版サービス				
事前学習の内容	テキストを読了しておくこと。				
事後学習の内容	テキストや講義ノートの確認。				
評 価 の 方 法 基 準	観察記録（20%）、レポート提出（50%）、発表（30%）				
履 修 上 の 意 注	「被服生理学実験」受講希望者は、この授業を履修することが望ましい。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	佐藤 希代子		
授 業 科 目	被服生理学実験		科目区分	専門科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	実験	開 講 時 期	1 年次・後期
授 業 の 主 題 目 標	【授業の主題】 快適な被服の評価をするために、被服等を着用した時の温冷感、圧迫感、肌触りなどの心理量、生理量に関する測定や評価を行い、実験計画、評価手法、解析手法について学習し、生体反応について理解を深める。 【到達目標】 快適な被服の評価、快適環境の評価についての実験を集中的に行う。実験テーマについて議論し、実験計画、評価方法、解析方法を考え、学生間相互に被験者となり実験を行う。受講者全員が 1 つのテーマで実験を行い、これらを通して、生体についての理解を深めることを目標とする。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. 衣服に関する問題点について考え、レポート提出。 2. 提出されたレポートを基に議論し、実験テーマを決定する。 3. 実験内容、評価方法、測定項目の検討。 4. 実験内容、評価方法、測定項目の検討および準備。 5. 実験 1（同テーマで被験者を数人確保し、5 回程度の実験を実施） 6. 実験 1 の解析と反省。実験手順・改善点の確認。 7. 実験 2（実験 1 のテーマで実験 1 とは異なる被験者にてのデータ収集） 8. 実験 3（実験 1 のテーマで実験 1・2 とは異なる被験者にてのデータ収集） 9. 実験 4（実験 1 のテーマで実験 1～3 とは異なる被験者にてのデータ収集） 10. 実験 5（実験 1 のテーマで実験 1～4 とは異なる被験者にてのデータ収集） 11. データの解析 12. データの解析、反省、実験レポートの作成 13. 実験レポートの作成 14. レポート発表・ディスカッション 15. まとめ 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	佐藤希代子著『被服生理学実験プリント』を授業時に配布する。 参考図書：日本家政学会被服衛生部会編『アパレルと健康』井上書院 鈴木浩明著『快適さを測る』日本出版サービス				
事前学習の内容	テキストプリントを読了しておくこと。				
事後学習の内容	「被服生理学」「被服衛生学」テキストや講義ノートの確認。				
評 価 の 方 法 基 準	観察記録（20%）、レポート提出（50%）、発表（30%）				
履 修 上 の 注 意	「被服生理学（後期・隔年開講）」「被服衛生学（後期・隔年開講）」を履修していることが望ましい。実験に適した動きやすい服装・履物で受講すること。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	道明 伸幸		
授 業 科 目	アパレルコンピュータ論		科目区分	専門科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	1、2年次・後期（隔年）
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 インターネットの普及とともにアパレル業界においても電子商取引、企業間ネットワークが急速に進みつつある。また、アパレル CAD・CAM 等においても 3DCAD、レーザー自動採寸システム、衣服シミュレーションなどの新しい技術が生まれている。本授業では、これらのテーマを学修する。 【到達目標】 将来アパレル業界で活躍するためにこれらについてその背景と原理を理解し、実際に接したとき十分に対応できるように準備する。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. ガイダンス 2. コンピュータとインターネット、AI について 3. 製造業と IT 4. 流通、小売と IT 5. アパレル EC（電子商取引、ネット通販） 6. アパレル CAD・CAM の概要、衣服シミュレーション 7. コンピュータ 3D 計測システム 8. アパレル工学と自動縫製ロボットへの道 9. e テキスタイル、ウェアラブルコンピュータ 10. 衣服シミュレーション DressingSim 型紙生成、縫製情報付与 11. ボディへの着せつけとシミュレーション計算 12. 衣服シミュレーション アニメーション生成 13. テキスチャーマッピングとビデオ生成 14. アパレル CAD による型紙の入力 15. 総まとめ 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	必要に応じてプリントを配布。 参考図書：キーワードで学ぶ最新情報トピックス 2024（日経 BP 社）				
事前学習の内容	事前に参考図書等の該当箇所をよく読んでおくこと。				
事後学習の内容	配布したプリントや参考図書を見返し、授業の復習を行うこと。				
評 価 の 方 法 基 準	レポート（100%）				
履 修 上 の 意 注	なし				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	田鹿 紘		
授 業 科 目	繊維・ファッション産業論		科目区分	専門科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	2 年次・前期（隔年）
授 業 の 主 題 目 標	【授業の主題】 本講義は繊維・ファッション産業について、経済学的な視点から講義する。需要サイドと供給サイドのそれぞれから構造や機能、消費生活との関係、地域産業との関係、各政策との関係を理解・考察することを目的とする。概念やデータのみならず、関係する事例もあわせて紹介していくことにする。 【到達目標】 繊維産業・ファッション産業の現状と課題を踏まえ、今後の方向性について提言できるようになる。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. イントロダクション 2. ファッション産業の現状と動向 3. ファッションの国内市場の概観 4. ファッション市場の供給サイドの動向 5. ファッション市場の需要サイドの動向 6. 日本の繊維・ファッション産業(1)産業構造 7. 日本の繊維・ファッション産業(2)今後の見通し 8. グローバル経済とファッション(1)海外で生産される衣服 9. グローバル経済とファッション(2)産業の空洞化 10. グローバル経済とファッション(3)ファストファッション 11. ファッション消費の変遷 12. 景気・所得とファッション 13. 岡山県のファッション生産の事例 14. 衣料の廃棄とリサイクルの問題 15. 講義まとめ 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	【テキスト】 使用しない。プリントを配布する。 【参考書】 加藤秀雄・奥山雅之『繊維・アパレルの構造変化と地域産業』文眞堂 【参考書】 康上賢淑『東アジアの繊維・アパレル産業研究』日本僑報社 【参考書】 岩崎剛幸『ファッション業界の動向がよ〜くわかる本』秀和システム				
事前学習の内容	地域経済と繊維産業・アパレル産業に関する新聞記事に目を通しておく。事前に指示した内容について調べ、概要を把握しておくこと。				
事後学習の内容	講義ノートや配布資料を見直し、知識を整理する。				
評 価 の 方 法 基 準	レポート (80%) 不定期で授業中に実施する小課題の達成度 (20%)				
履 修 上 の 注 意					

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	田鹿 紘		
授 業 科 目	地域経済論		科目区分	専門科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	講義	開 講 時 期	1、2年次・前期（隔年）
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 本講義では地域経済について理解・考察するための経済学的な理論について学ぶ。経済学的な理論のみならず、理論に関係する事例もあわせて学び、具体的・実践的に地域経済について理解し、考察をしていくことにする。 【到達目標】 地域経済を考察するための理論を身につけている。地域経済の現状と問題点についての知識を有している。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. 地域経済論とは 2. 岡山経済(1) 人口 3. 岡山経済(2) 産業 4. 岡山経済(3) 財政 5. 県内総生産・市町村内総生産 6. 地域の強み・特化係数 7. 立地モデル(1)理論 8. 立地モデル(2)事例 9. 地域の雇用と労働 10. 地域福祉と経済 11. スポーツと地域経済 12. 地域開発の歴史 13. 企業誘致 14. 観光と地域活性化 15. まとめ、試験				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	【テキスト】 使用しない。プリントを配布する。 【参考文献】 佐藤泰裕（2023）『都市・地域経済学への招待状（新版）』有斐閣 【参考文献】 地域経済学入門（2018）『地域経済学入門』有斐閣				
事前学習の内容	地域経済と産業に関する新聞記事に目を通しておく。事前に指示した内容について調べ、概要を把握しておくこと。				
事後学習の内容	講義ノートや配布資料を見直し、知識を整理すること。				
評 価 の 方 法 基 準	試験（100%）				
履 修 上 の 注 意					

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	岩崎 之勇		
授 業 科 目	流通論		科目区分	専門科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	1、2年次・前期（隔年）
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 流通の視点から、これらに関する基礎研究、および事例研究について学ぶ。 【到達目標】 ・マーケティング活動の4Pを構成する流通について理解する。 ・企業が取り組む流通に関する事例を理解する。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. 授業概要・ガイダンス（流通とは） 2. 百貨店と総合スーパー～購買方法の革新 3. 食品スーパーとコンビニエンスストア～新小売業態の台頭1 4. ディスカウントストアとSPA～新小売業態の台頭2 5. 商店街とショッピングセンター～小売業の集積 6. 小売業態とは何か～小売業と業態技術パッケージ 7. 小売を支えるロジスティクス～物流活動の統合的管理 8. インターネット技術と新しい小売業態～新業態技術パッケージ 9. 小売を支える卸～卸売業者に期待される今後の役割 10. 流通構造とその変容～流通成果を決定する流通構造 11. 日本型取引慣行～流通系列化と取引制度 12. 小売を中心とした取引慣行～メーカーから小売へのパワーシフト 13. 売買集中の原理と品揃え形成～商業者の存在理由 14. 商業とまちづくり公私が共存する理想的なまちづくり 15. まとめ・試験				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	石原武政他著（2021）『1からの流通論(第2版)』碩学舎				
事前学習の内容	授業の中で、特に調べてくる事項についての調査を求める場合がある。				
事後学習の内容	各回授業で進んだ教科書範囲、配った資料類を復習する。				
評 価 の 方 法 基 準	試験(80%)と中間レポート(20%)により評価する。				
履 修 上 の 注 意	なし				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	岩崎 之勇		
授 業 科 目	ブランド論		科目区分	専門科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	1 年次・後期
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 マーケティングにおけるブランドの役割、ブランドに関する基礎および事例研究について学ぶ。 【到達目標】 ・ブランドマーケティングについて全体像を理解する。 ・ブランドマーケティングで使われる基本的用語を理解する。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. 授業概要・ガイダンス、ブランドとは 2. ブランドマーケティングの考え方 3. ブランドメンテナンスとブランド再構築 4. 顧客視点によるブランド価値評価 5. 新ブランドの開発 6. ブランド名の開発パターン 7. 企業ブランドとは 8. ブランド体系とカテゴリー 9. ブランドコミュニケーション 10. ブランド広告のフレーム 11. ブランド調査方法 12. ブランドの潜在価値 13. ブランドプロジェクトの全体設計 14. ブランドマーケティングの留意点 15. まとめ・試験				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	株式会社インプレス R&D POD 出版サービス、2020、「ブランディングの教科書」羽田康祐・K_bird				
事前学習の内容	授業の中で、特に調べてくる事項についての調査を求める場合がある。				
事後学習の内容	各回授業で進んだ教科書範囲、配った資料類を復習する。				
評 価 の 方 法 基 準	試験(80%)と中間レポート(20%)により評価する。				
履 修 上 の 注 意	理解を助ける上で、マーケティング論（1 年次・後期）を併せて受講するのが好ましい。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	趙 採沃		
授 業 科 目	アート&メディア論		科目区分	専門科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	1、2 年次・後期(隔年)
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 20 世紀以降、メディアの発展に伴うアート&デザインの概念や、変遷を理解する。現代におけるテクノロジーの発展などの重要事柄などを絡み合いながらアートのあり様を思索する。事例研究を通じてアートとメディアとの関わりを深めていく。 【到達目標】 ・課題を通じて各自のアート&デザインについての独自の概念をもつこと。 ・テクノロジーの影響によるデザインとアートの今後の展望についての各自の考察を深める。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. オリエンテーション 2. 芸術と技術 3. 抽象とテクノロジー 4. キネティック・アート 5. 現代彫刻とテクノロジー 6. キネティック・アートからテクノロジー・アートへ 7. 映像とテクノロジー 8. テクノロジーと環境芸術 9. インタラクティブ・アートとテクノロジー 10. テクノロジー・アートの展望 11. 事例研究：日本の作家①探求 12. 事例研究：日本の作家②発表 13. 事例研究：海外の作家①探求 14. 事例研究：海外の作家②発表 15. まとめおよびレポート作成 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	『テクノロジー・アート』（三井秀樹、青土社、1994） 必要に応じて資料配布および作品・著書紹介。				
事前学習の内容	クラスルームから事前配布資料を読み、概要を把握しておくこと。				
事後学習の内容	授業の要点をメモした資料を読み直し、授業に課したレポートで提出すること。				
評 価 の 方 法 基 準	プレゼンテーション（50%）、レポート（50%）				
履 修 上 の 注 意	積極的に、プレゼンに取り組むこと。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	趙 採沃		
授 業 科 目	アート演習Ⅰ		科目区分	専門科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	演習	開 講 時 期	1 年次・前期
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 アート造形技法演習Ⅰを踏まえて現代アートにおけるイメージをさらに発展させる。現代におけるイメージとアート表現との関わりを理解する。身の周りのものことについての洞察力や、柔軟な思考力を育む。 【到達目標】 ・イメージに関する各自の制作手法を発掘すること。 ・独自の表現方法を通じて自らの作品制作が遂行できること。 ・アート表現としてのイメージの多様な媒体による操作技術とその応用力を身に付ける。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. オリエンテーション 2. 環境とアートについて 3. 環境とアートについて 発想 4. ラフスケッチ画・制作案の発案 5. 制作案の検討と素材集め 6. 環境とアートについて 作品の制作 7. 環境とアートについて 作品の仕上げ 8. 作品のプレゼンテーション 9. メディアとアートについて 現代のメディアアートの概要 10. メディアとアートについて 発想 11. ラフスケッチ画の完成・制作案の作成 12. 素材集め 13. メディアとアートについて 作品の制作 14. メディアとアートについて 作品の仕上げ 15. 作品の展示とまとめ 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	『美術からアートへ』（三田村峻右著、鳳山社、1993） 必要に応じて資料配布および作品・著書紹介。				
事前学習の内容	事前配布資料を読み、制作に関する概要を把握しておくこと。				
事後学習の内容	授業の課題制作と、小レポートで提出すること。				
評 価 の 方 法 基 準	作品（80%）、プレゼンテーション（20%）				
履 修 上 の 意 注	クロッキー帳など、基本的な描画道具が必要なため、各自で準備し、毎回持参。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	趙 採沃		
授 業 科 目	アート演習Ⅱ		科目区分	専門科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	演習	開 講 時 期	1 年次・前期
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 身体をめぐる諸造形的言説を考察する。 様々な身体の機能や、感覚的要素についての思考力・感受性を高める。 身体をモチーフにしたアートの制作及びそれぞれの制作技法の発掘・発展させる。 【到達目標】 ・身体を造形要素とし、アートや造形が遂行できること。 ・身体を媒体にした作品プレゼンテーション力・デジタルの記録と編集および技術力の習得と発展させること。 ・身体とアートに関する独自の見解をもつこと。				
授 業 の 内 容 方 法	1. オリエンテーション 2. 20 世紀以降、現代美術における身体とアートについて 3. 身体を媒体にしたアートについて (パフォーマンス、イベント、ハプニングなど) 4. 作品の発想：ディスカッション 5. 作品の企画：スケッチ画・制作案作成 6. 作品の制作①素材集め 7. 作品の制作②表現力と技術の発掘 8. 作品の制作③試し制作 9. 作品の制作④本制作 10. 作品のプレゼンテーション（実演） 11. 作品のプレゼンテーション（記録） 12. 作品のプレゼンテーション（1 回目映像の編集） 13. 作品のプレゼンテーション（2 回目映像の完成） 14. 作品の発表 15. まとめ 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	『冷たいパフォーマンス』（清水徹＋山口勝弘、朝日出版社、1983） 必要に応じて資料配布および作品・著書紹介。				
事前学習の内容	事前配布資料を読み、制作に関する概要を把握しておくこと。				
事後学習の内容	授業の課題制作と、小レポートで提出すること。				
評 価 の 方 法 基 準	作品（60%）、プレゼンテーション（40%）				
履 修 上 の 注 意	クロッキー帳など、基本的な描画道具が必要なため、各自で準備し、毎回持参。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	田中 孝明（実務経験あり）		
授 業 科 目	テキスタイルデザイン演習Ⅰ		科目区分	専門科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	演習	開 講 時 期	1 年次・前期
授 業 の 主 題 標 目	【授業の主題】 デザインに関する情報収集及びデザイン計画の展開を学び、各自が自由にテーマを設定し、ファッション、インテリアに関連した独創的なデザインとして発展、展開する。各課題に対してテーマに基づいたデザイン計画を立て、プレゼンテーション資料作成を通じてデザインプロセスを修学し、表現する。 【到達目標】 ・学生はデザイン企画を考えるためのプロセスを修学する。 ・学生はテーマに基づいたデザイン計画を遂行する。				
授 業 の 内 容 方 進 め 方	各自テーマ設定を行い、ディレクションの企画を計画し、インテリアにおけるデザイン企画制作とウェアブルにおけるデザイン企画制作を行う。 授業進行手順 1. ガイダンス、企画課題説明 2. ディレクションのための調査・序章 3. ディレクションのための調査・分析 4. ディレクションのための調査・展開 5. ディレクション企画計画・序章 6. ディレクション企画計画・展開 7. ディレクション企画課題制作・序章 8. ディレクション企画課題制作・展開 9. ディレクション企画課題制作・編集 10. ディレクション企画課題講評会 11. デザイン企画調査 12. デザイン企画課題制作・序章 13. デザイン企画課題制作・分析 14. デザイン企画課題制作・展開 15. デザイン企画課題講評会 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容	企業における商品開発の実務経験を活かし、デザイン企画、色彩計画、デザイン作成に関しての実践的教育を行う。				
テ キ ス ト 教 材	参考図書：『インテリアトレンドビジョン』 資料を配布する。				
事前学習の内容	各課題において、授業前の資料収集、デザインなどを求める。				
事後学習の内容	各課題において、作品制作後のデザイン探求。				
評 価 の 方 法 基 準	期日指定の作品（100%）				
履 修 上 の 意 注	演習による作品制作が多く、提出物は毎回期日を厳守すること。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	田中 孝明（実務経験あり）		
授 業 科 目	テキスタイルデザイン演習Ⅱ		科目区分	専門科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授業形態	演習	開 講 時 期	2年次・前期
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 ものづくりのプロセスを学び、作品課題を展開するための資料収集、試作などを繰り返し体験する。各自自由にテーマを選択し、デザイン及びアートの視点で作品を完成させることを目標とする。表現方法の拡大のため多様な方法を駆使し目的に沿って完成させる。 【到達目標】 ・学生はテキスタイルに関わるデザイン、アートの展開事例を知る。 ・学生はテーマに基づいたデザイン及びアート計画を遂行する。				
授 業 の 内 容 方 進 め 方	多様なデザイン表現のスキルやテクニックを拡大し各自で開発する。プランニングを通じて、サンプル制作及び企画制作を行う。 授業進行手順 1. ガイダンス、作品課題説明 2. 素材をテーマにしたデザイン企画課題制作（ディスカッション） 3. 素材をテーマにしたデザイン企画課題制作（資料収集） 4. 素材をテーマにしたデザイン企画課題制作（資料調査） 5. 素材をテーマにしたデザイン企画課題制作（展開） 6. 素材をテーマにしたデザイン企画課題制作（アイデア出し） 7. 素材をテーマにしたデザイン企画課題制作（試作） 8. 素材をテーマにしたデザイン企画課題制作（再構成） 9. 素材をテーマにしたデザイン企画課題制作（編集） 10. 感覚をテーマとしたデザイン企画課題講評会 11. 感覚をテーマとしたデザイン課題制作（ディスカッション） 12. 感覚をテーマとしたデザイン課題制作（資料収集） 13. 感覚をテーマとしたデザイン課題制作（アイデア出し） 14. 感覚をテーマとしたデザイン課題制作（試作） 15. 感覚をテーマとしたデザイン課題制作講評会 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容	企業における商品開発の実務経験を活かし、デザイン企画、色彩計画、デザイン作成に関しての実践的教育を行う。				
テ キ ス ト 教 材	参考図書：『DESIGNING DESIGN』 資料を配布する。				
事前学習の内容	各課題において、授業前の資料収集、デザインなどを求める。				
事後学習の内容	各課題において、作品制作後のデザイン探求。				
評 価 の 方 法 基 準	期日指定の作品（100%）				
履 修 上 の 意 注	演習による作品制作が多く、提出物は毎回期日を厳守すること。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	田中 孝明		
授 業 科 目	工芸染織		科目区分	専門科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	演習	開 講 時 期	1 年次・後期
授 業 の 主 題 目 標	【授業の主題】 織り表現を取得し、基本的な織組織から布をつくることを修学する。テキスタイル表現としてのテクスチャと造形表現を修得し、自らデザインした作品を制作する。 【到達目標】 ・学生は布の構造及び織り表現及び技法を修学することができる。 ・学生は織りによる布の造形表現及びデザイン展開を遂行する。				
授 業 の 内 容 進 め 方	授業進行手順 1. ガイダンス、課題説明 2. テーマ課題制作（アイデア出し） 3. テーマ課題制作（織物構想） 4. テーマ課題制作（織物設計） 5. テーマ課題制作（織り装置の準備） 6. テーマ課題制作（織り装置の経糸準備） 7. テーマ課題制作（織り装置の経糸調整） 8. テーマ課題制作（織り装置の開口調整） 9. テーマ課題制作（織り装置の最終調整） 10. テーマ課題制作（織り表現の作業説明） 11. テーマ課題制作（織り表現説明） 12. テーマ課題制作（織り作業） 13. テーマ課題制作（織り作業・展開） 14. テーマ課題制作（仕上げ） 15. テーマ課題制作講評会 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	参考図書：『ウィーヴィング・ノート』 資料を配布する。				
事前学習の内容	各課題において、授業前の資料収集、デザインなどを求める。				
事後学習の内容	各課題において、作品制作後の造形探求。				
評 価 の 方 法 基 準	期日指定の作品（100%）				
履 修 上 の 意 注	演習による作品制作が多く、提出物は毎回期日を厳守すること。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	田中 孝明（実務経験あり）		
授 業 科 目	染色実習		科目区分	専門科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	実習	開 講 時 期	1 年次・後期
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 布による造形作品の制作として、染色の応用段階に入り多様なスキルやテクニックを体得する。シルクスクリーンプリント、絞り染、型染、植物染料実験等の実習を行う。また、応用作品制作を通じ、創造的な表現を習得する。多様な染色表現、布の加工表現などを修学し、発想力を育てることを目標とする。 【到達目標】 ・学生はテキスタイルに関わる表現、技法を体験し、知ることができる。 ・学生はテキスタイル表現によるものづくりの展開を試行する。				
授 業 の 内 容 進 め 方	授業進行手順 1. ガイダンス、課題説明 2. 型染による作品制作（括り作業） 3. 型染による作品制作（絞り染め） 4. 型染による作品制作（型紙制作） 5. 型染による作品制作（糊置き） 6. 型染による作品制作（染色） 7. 型染による作品制作（定着） 8. 布加工による作品制作（オパール加工） 9. 布加工による作品制作（染色） 10. 植物染料実験 11. 応用作品制作（ディスカッション） 12. 応用作品制作（アイデア出し） 13. 応用作品制作（展開） 14. 応用作品制作（試作） 15. 講評会 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容	企業における商品開発の実務経験を活かし、応用作品制作におけるものづくりのデザイン企画、色彩計画、デザイン作成に関しての実践的教育を行う。				
テ キ ス ト 教 材	参考図書：『絞り染め大全』、『染色の基礎知識 合成染料の技法』 資料を配布する。				
事前学習の内容	各課題において、授業前の資料収集、デザインなどを求める。				
事後学習の内容	各課題において、作品制作後の造形探求。				
評 価 の 方 法 基 準	期日指定の作品（100%）				
履 修 上 の 意 注	演習による作品制作が多く、提出物は毎回期日を厳守すること。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	上村 晴彦		
授 業 科 目	衣服論		科目区分	専門科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	1、2 年次・前期（隔年）
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 衣服という存在が可能にしてきたことを、デザイナー・芸術家・思想家の仕事、衣服そのもの、ファッションなどの現象を通じて多角的に考察する。個々の調査・研究に関わる視点から衣服について各自プレゼンテーションを行い、それを題材にしてディスカッションを行う。 【到達目標】 ・衣服における社会的あるいは文化的な事象について理解することができる。 ・衣服のデザイン及び制作における問題や価値を理解し説明することができる。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. オリエンテーション ひとはなぜ衣服を着るのか 2. 衣服の領域について 3. 未来につながるファッションの新しい価値とは 4. ディスカッション 5. 衣服の領域 ルーシー・オルタの身体建築 6. 衣服の領域 草間彌生の絵画とソフトスカルプチュア 7. 衣服の領域 まとめ 8. 神々との接触 9. みっともない人体・衣服 10. 事例研究 ファッションについて 11. 事例研究 身体と衣服の関わりについて 12. 事例研究 社会との関わりについて 13. 事例研究 時代の特徴（2000 年以降） 14. 事例研究 時代の特徴（2000 年以前） 15. まとめ 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	参考資料 『衣服の領域』小池一子監修（武蔵野美術大学美術資料図書館）				
事前学習の内容	授業で配付された資料や参考資料に目を通し、プレゼンテーションの準備や課題に取り組むこと。				
事後学習の内容	各回のプレゼンテーションに関するレポートを提出すること。				
評 価 の 方 法 基 準	プレゼンテーション（60%） 課題（40%）				
履 修 上 の 注 意	なし				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	上村 晴彦（実務経験あり）		
授 業 科 目	ライフプロダクト演習Ⅰ		科目区分	専門科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授業形態	演習	開 講 時 期	1年次・後期
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 現在の社会・経済の仕組み、コミュニティやコミュニケーションについて考察し、身近なものを観察することを通して、デザインや表現を試みる。個々で調査・研究・制作を行い、展示形式による発表を行う（学内外を問わない）。 【到達目標】 ・生活を形成している環境や製品について考察し、問題を提起することができる。 ・発想・伝達・構成する力を軸に、独自性と社会性を伴ったデザインやプロジェクトを提案できる。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. オリエンテーション 自分たちの生活環境について 2. 調査・研究1 周囲を観察する。 3. 調査・研究2 身近なものの収集 4. 調査・研究3 収集したものの分類・編集 5. 中間発表（調査・研究のプレゼンテーション） 6. 試作1 収集したものの落とし込み 7. 試作2 パターンの提示・これまでのまとめ 8. 中間発表（試作のプレゼンテーション） 9. 制作1 作品の考えについて 10. 制作2 広報に関するもの 11. 制作3 デザイン、制作 12. 設営、展示 13. 講評、搬出 14. ポートフォリオの作成 15. ポートフォリオのプレゼンテーション 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容	デザインと展示の実務経験を活かし、デザイン企画とデザインに関する実践的教育を行う。				
テ キ ス ト 教 材	参考資料 『イドコロをつくる 乱世で正気を失わないための暮らし方』伊藤洋志（東京書籍）、「社会の役に立たないという価値 角幡唯介さん語る探検論」（聞き手・中島鉄郎）「2020.10.1 朝日新聞デジタル」、「もらいものはもらうもの」内田健太郎『ちゃぶ台』vol.3「教育×地元」号（ミシマ社）				
事前学習の内容	課題に必要な調査と収集を行うこと。				
事後学習の内容	各回後のディスカッションに関するレポートを提出すること。				
評 価 の 方 法 基 準	課題（80%） プレゼンテーション（20%）				
履 修 上 の 意 注	展示場所の視察や搬入搬出など、別途交通費などが必要になる場合がある。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	上村 晴彦（実務経験あり）		
授 業 科 目	ライフプロダクト演習Ⅱ		科目区分	専門科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	演習	開 講 時 期	2 年次・前期
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 身の回りにあるものから企画する力と展覧会の実践を通して、創造とコミュニケーションの能力を鍛える。受講者全員の話し合いを通して、共通のテーマを設定する。個々がそのテーマへのアプローチを試みる。研究と試作を経て、制作を行う。学外での展示形式の発表を予定している。 【到達目標】 ・身の回りを観察し資料収集する能力を高め、テーマに基づいたデザイン・制作をすることができる。 ・グループワークによるコミュニケーションを前提とした、企画を立案し実践することができる。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. オリエンテーション テーマに関する観察力と視点について 2. テーマに関する情報の収集 3. テーマに関する話し合いとテーマ設定 4. 展示に関する役割決めとスケジュールの作成 5. 展示場所についての情報収集と考察 6. 展示場所の現地視察 7. 研究・試作 1 制作に関する収集 8. 研究・試作 2 分類と編集 9. 研究・試作 3 これまでのまとめ 10. 中間発表 プレゼンテーション 11. 広報の構想とデザイン 12. 制作 1 考えの構築 13. 制作 2 全体の構成 14. 搬入、展示 15. 講評、搬出 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容	デザインと展示の実務経験を活かし、デザイン企画とデザインに関する実践的教育を行う。				
テ キ ス ト 教 材	参考資料 『ちゃぶ台』 vol. 1～3（ミシマ社） 『世界をきちんとあじわうための本』 ホモ・サピエンス道具研究会（ELVIS PRESS）				
事前学習の内容	課題に必要な調査と収集を行うこと。				
事後学習の内容	各回後のディスカッションに関するレポートを提出すること。				
評 価 の 方 法 基 準	課題（80%） プレゼンテーション（20%）				
履 修 上 の 意 注	展示場所の視察や搬入搬出など、別途交通費などが必要になる場合がある。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	関崎 哲		
授 業 科 目	空間演出演習		科目区分	専門科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	演習	開 講 時 期	2 年次・前期
授 業 の 主 題 目 標	【授業の主題】 ・実空間の観察・分析の方法を習得する。 ・自身の制作物の提示空間を想定しその提示空間の模型を制作する。 【到達目標】 ・実空間を分析し、そのデザイン意図と素材の関係を説明することができる。 ・提示物の特徴を理解し、その提示空間として効果的な空間を想定することができる。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. 本授業の概要説明・空間の観察・分析のイントロダクション 2. 作品の提示空間と方法について 3. 自身の作品と提示空間についての考察①・実例資料収集 4. 自身の作品と提示空間についての考察②・レポート作成 5. 自身の作品と提示空間プレゼンテーションと討議 6. 提示空間の模型制作について① 材料と手法 7. 提示空間の模型制作について② 制作計画の立案・レポート作成 8. 制作する提示空間のプレゼンテーションと討議 9. 模型制作にむけたアイデアスケッチと討議 10. ショウウィンドウ模型制作① 11. ショウウィンドウ模型制作② 12. 提案したショウウィンドウについて中間発表 13. ショウウィンドウ模型制作③ 14. 作品プレゼンテーション準備 15. 作品プレゼンテーションと授業のまとめ 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	必要に応じてプリントを配布する。 参考図書；『注目の空間デザイナー・建築家 100 人の仕事』（パイインターナショナル） 『空間デザイナー』（六耀社）				
事前学習の内容	課題制作のための道具と材料を用意し、使用方法を把握しておく。 授業時間内の作業がスムーズにいくように事前準備を行う。				
事後学習の内容	授業中に行った内容、問題点をまとめ記録する。自主制作時間を確保し、効率的に制作を進める。				
評 価 の 方 法 基 準	提出作品及びレポート（30%）、プレゼンテーション（30%）、期末提出作品（40%）				
履 修 上 の 意 注	開講期間内に1～2度、学外にて実空間の観察と分析を行う。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	服飾美術学科全教員		
授 業 科 目	産業研修Ⅰ		科目区分	専門科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	実習	開 講 時 期	1 年次・前期（集中）
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 この科目は、学外での学びを通じて学習意欲を高めることや就職活動に備え、早い時期から産業界との接点を持ち、実務的な体験を得ることが目的である。 【到達目標】 以下の実行能力が身についている。 ・大学で学んでいる知識・理論・技術が実社会でどのように生きているか、あるいは、どのような相違があるかを考えること ・自分自身の将来について考えること ・自分自身の適性を確認できるようになること ・学びと働くことの意義を考えること ・働くことの楽しさや厳しさを体感すること ・就職活動に対する選択肢を広げ自分自身のキャリアデザインを描くこと				
授 業 の 内 容 方 進 め 方	授業スケジュールや内容は、企業、行政機関、まちづくり団体などの都合に準じる。なお、夏休みを含めた前期終了までに以下の流れで授業を展開する。 1. 大学生の就職活動における産業研修の意義（担当：情報・地域・ビジネスコース教員） 就職活動、採用マッチング、産業研修とは何か、企業と学生にとってのメリット 2. 労働市場の動向（担当：情報・地域・ビジネスコース教員） 新卒とは、労働市場の特殊性、労働市場の需要と供給 3. 産業研修の準備を始めよう（担当：情報・地域・ビジネスコース教員） 自己分析、業界研究、企業研究、就職支援サイトの活用と問題点、ハローワークの活用 ※産業研修先は、大学から紹介する受入先および就活支援サイト等から紹介する受入先を各自で選択することができます。 4. 産業研修の実施（担当：服飾美術学科全教員） 企業、行政機関、まちづくり団体で産業研修へ参加 ※内容、スケジュール、場所は企業等によって異なる。 5. レポート作成（担当：服飾美術学科全教員） 自分自身のキャリア形成にどのように役立ったか整理しながらまとめる、お礼状を作成する。 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	【参考書】『「仕事映画」に学ぶキャリアデザイン』梅崎修 他 有斐閣 【参考書】『「働くこと」を社会学する 産業・労働社会学』小川慎一 他 有斐閣 【参考書】『ジェンダーで学ぶ生活経済論[第3版]』伊藤純 他 ミネルヴァ書房 ※参考書は必ずしも購入する必要はない。その他の参考文献は必要に応じて適宜紹介する。				
事前学習の内容	事前予習を十分行った上で産業研修に臨むこと。 事前準備として産業研修先の企業等に関する予備調査をすること。				
事後学習の内容	産業研修を振り返り、所定の日誌に記すこと。				
評 価 の 方 法 基 準	産業研修評価シート（50%）、産業研修日誌とレポート（50%）により評価する。				
履 修 上 の 意 注	下記の注意点をよく読み、理解した上で履修してください。 ・産業研修先の企業等の多大なる協力によって成り立っていることに留意すること。 ・産業研修先の企業等ごとに、就業規則等に準じて実習を行うため、特別の理由なく遅刻や欠勤をしないこと。また、安全守則を厳守すること。 ・社会人としての規律と自覚を持って実習に参加すること。 ・採用につながる可能性があることを意識すること。 ・原則として2025年8月末日までに産業研修を終えること。 ・大学が準備している履修先企業（20社程度）の数を上回る受講希望があった場合は、履修先を自ら探索・確保することを求める場合がある。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	服飾美術学科全教員		
授 業 科 目	産業研修Ⅱ		科目区分	専門科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	実習	開 講 時 期	1 年次・後期（集中）
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 この科目は、日ごろ学んでいる知識や技術を用いて、多角的な視点から企業を観察する眼を養うことや、将来自分が希望する就職先企業についての探索、研究など、進路選択の基盤とすることが目的である。 【到達目標】 ・大学で学んでいる知識・理論・技術が実社会でどのように生きているか、あるいは、どのような相違があるかを考えること ・自分自身の将来について考えること ・自分自身の適性を確認できるようになること ・学びと働くことの意義を考えること ・働くことの楽しさや厳しさを体感すること ・就職活動に対する選択肢を広げ自分自身のキャリアデザインを描くこと ・自分の将来設計、適正に沿った就職先企業の絞り込みを行い得ること				
授 業 の 内 容 進 め 方	授業スケジュールや内容は、企業、行政機関、まちづくり団体などの都合に準じる。なお、冬休みを含めた後期終了までに以下の流れで授業を展開する。 1. 大学生の就職活動における産業研修の意義（担当：情報・地域・ビジネスコース教員） 就職活動、採用マッチング、産業研修とは何か、企業と学生にとってのメリット 2. 労働市場の動向（担当：情報・地域・ビジネスコース教員） 新卒とは、労働市場の特殊性、労働市場の需要と供給 3. 産業研修の準備を始めよう（担当：情報・地域・ビジネスコース教員） 自己分析、業界研究、企業探索、企業研究、就職支援サイトの活用と問題点、ハローワークの活用 4. 産業研修の実施（担当：服飾美術学科全教員） 企業、行政機関、まちづくり団体で産業研修へ参加 ※内容、スケジュール、場所は企業等によって異なる 5. レポート作成（担当：服飾美術学科全教員） 自分自身のキャリア形成にどのように役立ったか整理しながらまとめる、お礼状を作成する 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	【参考書】『「仕事映画」に学ぶキャリアデザイン』 梅崎 修 他 有斐閣 【参考書】『「働くこと」を社会学する 産業・労働社会学』 小川慎一 他 有斐閣 【参考書】『ジェンダーで学ぶ生活経済論[第3版]』 伊藤 純 他 ミネルヴァ書房 ※参考書は必ずしも購入する必要はない。その他の参考文献は必要に応じて適宜紹介する。				
事前学習の内容	事前予習を十分行った上で産業研修に臨むこと。 事前準備として産業研修先の企業等に関する予備調査をすること。				
事後学習の内容	産業研修を振り返り、所定の日誌に記すこと。				
評 価 の 方 法 基 準	産業研修評価シート（50%）、産業研修日誌とレポート（50%）により評価する。				
履 修 上 の 意 注	下記の注意点をよく読み、理解した上で履修してください。 ・産業研修先の企業等の多大なる協力によって成り立っていることに留意すること。 ・産業研修先の企業等ごとに、就業規則等に準じて実習を行うため、特別の理由なく遅刻や欠勤をしないこと。また、安全守則を厳守すること。 ・社会人としての規律と自覚を持って実習に参加すること。 ・採用につながる可能性があることを意識すること。 ・原則として2026年1月末日までに産業研修を終えること。 ・原則として履修先を自ら探索・確保することを求める。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	服飾美術学科全教員		
授 業 科 目	特別研究Ⅰ		科目区分	専門科目	4 単 位
必 修 ・ 選 択	必修	授業形態	演習	開 講 時 期	1 年次・通年
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 講義・演習・実習・実験等で学んだ知識・技術を応用して、各自のテーマについて研究および課題制作に取り組み、その過程を通じて研究能力または技能を養うと共に、発表の仕方や論文の書き方等について学ぶ。 【到達目標】 この過程を通じて独創性・積極性を体得させ、将来必要となる幅広い知識と柔軟な応用力を身につける。特にこの特別研究Ⅰでは、研究テーマの設定、先行研究・制作の調査に重点を置く。				
授 業 の 内 容 進 め 方	本科目は学修総まとめ科目である特別研究Ⅱの準備段階として授業を進める。 履修者が指導教員による指導の下、自らの研究構想を具体的な研究課題の設定につなげ、先行研究をまとめた上で、枠組みとなる理論や研究方法を探り、「研究計画書」を仕上げる。 1～2. オリエンテーション（学位授与制度、履修方法）（担当：専攻科担任） 3～9. 学修・探求の成果論文のテーマ（案）の学修・探求（担当：ゼミ担当教員） 10～11. 学修・探求の成果論文の内容（計画）・過程（案）の作成（担当：ゼミ担当教員） 12～13. 学修・探求の成果論文のテーマの着想（案）の作成（担当：ゼミ担当教員） 14～15. 学修・探求の成果論文の目的（案）、手段・方法（案）の作成（担当：ゼミ担当教員） 16～19. 学修・探求の成果論文中間発表会の資料作成（担当：ゼミ担当教員） 20～21. 学修・探求の成果論文中間発表会（担当：服飾美術学科全教員） 22～23. 学修・探求の成果論文のテーマ（案）の修正（担当：ゼミ担当教員） 24～25. 学修・探求の成果論文の内容（計画）・過程（案）の修正（担当：ゼミ担当教員） 26～27. 学修・探求の成果論文のテーマ（仮）の着想の修正（担当：ゼミ担当教員） 28～29. 学修・探求の成果論文の目的（案）、手段・方法（案）の修正（担当：ゼミ担当教員） 30. まとめ 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	各自の研究により教材が異なる。				
事前学習の内容	演習授業の進行状況により、修了論文作成のための論文検索調査など、各ゼミにおいて準備学習についての指示をする。				
事後学習の内容	研究テーマについて自主的な探究を継続すること。				
評 価 の 方 法 基 準	各学生の研究テーマの研究到達度、内容、成果に照らし、服飾美術学科教員が学生ごとに個別に行う。				
履 修 上 の 注 意	ゼミ担当教員の他の授業科目をできるだけ受講することが望ましい。 ゼミ配属については、希望調査をもとに人数調整を行う。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	服飾美術学科全教員		
授 業 科 目	特別研究Ⅱ		科目区分	専門科目	4 単 位
必 修 ・ 選 択	必修	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	2 年次・通年
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 講義・演習・実習・実験等で学んだ知識・技術を応用して、各自のテーマについて研究および課題制作に取り組み、その過程を通じて研究能力または技能を養うと共に、発表の仕方や論文の書き方等について学ぶ。 【到達目標】 この過程を通じて独創性・積極性を体得させ、将来必要となる幅広い知識と柔軟な応用力を身につける。特にこの特別研究Ⅱでは、修了論文の完成を目指す。				
授 業 の 内 容 進 め 方	本科目は学修総まとめ科目としての意義を有する。 特別研究Ⅰで立案した「研究計画書」にもとづき、履修者が指導教員によるさらなる指導の下で、必要な研究課題の再考や修正を加えながら、フィールドでの質的・量的調査や実証実験、文献探索、模型やオブジェ制作等（以下、「調査等」という。）を進め、独自の研究結果を得て、分析・考察を加えた後、修了論文にまとめる。 1～12. フィールドでの調査等の実施計画（ゼミ担当教員） 調査等の方法や調査等の倫理など（ゼミ担当教員） 調査等の計画に沿った研究の準備・実施（ゼミ担当教員） 履修計画発表（服飾美術学科全教員） 学修総まとめ科目履修計画書の作成（ゼミ担当教員） 13～16. 調査等の結果の分析結果の読み取り方、まとめ方等（ゼミ担当教員） 17～18. 学修成果発表会発表要旨・プレゼンテーション作成（ゼミ担当教員） 19～20. 学修成果発表会（服飾美術学科全教員） 21～26. 学修・探求の成果論文の修正（ゼミ担当教員） 27～30. 学修総まとめ科目 成果の要旨作成（ゼミ担当教員） 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	各自の研究により教材が異なる。 各ゼミにおいて、演習内容に即して適宜配布する。				
事前学習の内容	演習授業の進行状況により、修了論文作成のための論文検索調査など、各ゼミにおいて準備学習についての指示をする。				
事後学習の内容	研究テーマについて自主的な探究を継続すること。				
評 価 の 方 法 基 準	授業や研究活動への主体的な取り組み状況 修了論文 学修成果発表会・修了論文報告 学修総まとめ科目成績基準表、を基に判断する。				
履 修 上 の 意 注	発表会の準備、運営は専攻科生の協力のもとで行う。 修了論文の提出期限（提出先：学生部）は、原則として、2 年次の2月中旬（別途日時を指定）とする。 ゼミ担当教員の他の授業科目をできるだけ受講することが望ましい。				